

小倉記念病院 循環器内科日より

つなぐ

Vol.19

2017.12月

2016年12月、浅大腿動脈の長区間病変に対してバイアバーステントグラフトが登場した。長区間病変に対するこれまでのステント留置術では、再狭窄、再閉塞が問題となり、外科的バイパス術がこの病気の第一選択となっていた。

下肢動脈血管病変への内科的治療を牽引しているのが、循環器内科部長 曾我芳光。彼は前院長 延吉正清の「足の病気の長期予後を調べて欲しい」の一言で下肢治療の道を歩み始めた。下肢の動脈硬化は最後に起こる。つまり、下肢動脈血管の閉塞を起こしている患者の多くが、心臓や脳、頸動脈などにも病変がある可能性が高いため、下肢の動脈だけではなく全身の動脈に気を配らないといけない。そして何より患者の歩ける幸せを奪われないために、下肢救済に取り組んできた。

しかし、これまで浅大腿動脈の長区間病変は内科的治療の大きな壁となっていた。そこにバイアバーステントグラフトが登場したことにより、慢性期に生じる再狭窄、再閉塞が低減され、外科的バイパス術と同等の結果を期待されている。

彼は「循環器の医者が何で足を治すの？」と聞かれた時には、「歩くためです。」と答えるようにしている。普段、健康な時に歩ける幸せを感じている人はいない。この当たり前の日常が当たり前でいられるように、彼は今日も明日への一歩をつなげている。

参加費
無料

第28回 小倉循環器内科セミナー

日時／2018年1月30日(火) 19:00～21:00 場所／リーガロイヤルホテル小倉 3階 エンパイア



京都大学大学院
医学研究科
循環器内科学 教授
木村 剛

〈座長〉小倉記念病院 診療部長・循環器内科 主任部長 安藤 献児

第1部

リードレスペースメーカについて

小倉記念病院 循環器内科 副部長 永島 道雄

第2部

日本人冠動脈疾患患者における 2次予防薬物治療についての最近の知見

京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 木村 剛 教授

終了後、情報交換会を実施させていただきます。

共催：小倉記念病院 循環器内科 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

参加
方法

1月24日(水)迄に、同封しておりますセミナー参加申込用紙に、必要事項をご記入の上、小倉記念病院 医療連携課までFAXにてご返信ください。

医療連携課 FAX.0120-020-027

いつもの暮らしに、いつものあなた
小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号
TEL.093-511-2000(代表)